

6月20日(日)



記念植樹に臨む十津川村の更谷村長



追悼式



告諭を讀誦する奈良県の窪田副知事

戦没者・開拓物故功労者・消防殉職者追悼式と開町120年記念式典が、ゆめりあで開催され、追悼式に179人、記念式典に340人が参列しました。記念式典には、十津川村の更谷慈禧村長をはじめ、窪田修奈良県副知事、多田健一郎北海道副知事、鉢呂吉雄衆議院議員、橋本聖子参議院議員など多数の来賓も参列し、式典は厳肅な雰囲気の中で執り行われました。

開町120年記念式典

戦没者・開拓物故功労者・消防殉職者追悼式

功労表彰受彰者

自治振興
浅野 宏
宮井 純一
宮井 忠士
(敬称略)

貢献表彰受彰者

社会福祉
伊藤 敏昭
(敬称略)

感謝状受賞者

鈴木喜代子
(敬称略)

開拓功労者

小松ヤエ子
高山 武
杉本サダエ
伊藤 なつ
佐藤アイ子
岡 ユキエ
北川 信行
大塚 すみ
大久保文男
星場フミ子
渡邊 博
前谷 君枝
佐々木金治
笹木 フミ
赤田 福光
杉本 政吉
新井 利信
松原 ワキ
小林 アサ
(敬称略)

高額寄付者
久保田文雄
井澤 元秀
佐川美恵子
(敬称略)



功労表彰・貢献表彰受彰者と植田町長



感謝状受賞者と植田町長

移住ウォーク

6月26日(土)



120年前を振り返る

明治22年8月の大水害で生活基盤を失った十津川の人々は、北海道への集団移住を決意します。

奈良県知事の税所篤から『告諭』と呼ばれる激励文をもらった一行は、明治22年10月に神戸から船に乗って小樽に入り、小樽からは鉄道で市来知(現在の三笠市)に到着しました。

当初道庁は、市来知から空知太(現在の滝川市)へは、移住者を馬車で移動させる予定でしたが、すでに初冬の降雪期に入り道路はぬかるんでいて、馬車は走れませんでした。一行は仕方なく、市来知から空知太への52kmを歩くことになったのです。

この年は11月2日から雪が降り始め、移動の日には15cmも積もっていました。健康な人は自分の足で歩き、子どもやお年寄りや囚人におぶさつて進みました。途中、ナ工現在の奈井江町)の粗末な囚人小屋で一泊し、翌日の夕方に空知太に到着したときには、みんな疲れ果てていたと伝えられています。

先人の苦労を体験

開町120年の節目となる今年、そういつた先人の苦労を体験しようとして、移住ウォークが開催されました(表紙)。

三笠市の道の駅からスタートし、本町の菊水公園(移住者が滝川から石狩川を渡って最初に足を踏み入れた地)までの36kmコースと、奈井江町の道の駅までの22kmコースを設定し、参加者はそれぞれの体力に合わせたコースを歩きました。

この日は、移住当時とは正反対の真夏日となり、暑さや疲れと闘いながら、111人の参加者のうち88人が完歩を果たしました。



北海道消防協会空知地方支部中空知分会が主催する第56回連合消防演習が、防災センター前で開催され、消防車両30台のほか、消防職、団員など550人が集まりました。

今回は、本町の開町120年を記念し、明治から現在に至るまでの消火方法を新十津川の消防団員が寸劇を交えながら紹介しました。



6月27日(日)



消防演習